総合型地域スポーツクラブ運営に関する今後の展望
―埼玉県入間市市民意識調査結果に基づく考察―

邑　木　隆　二

Ⅰ．はじめに

わが国の少子高齢化社会の中で，人々が地域のスポーツ施設を拠点とし，子どもから高齢者に至るまで，誰もがスポーツに参加でき，また他種目にわたるスポーツ種目に親しむことができるスポーツクラブを趣旨として，文部科学省は平成7年に「総合型地域スポーツクラブ育成事業」をスタートした。平成12年には同省によって「スポーツ振興基本計画」が策定され，総合型地域スポーツクラブ育成の到達目標として「2010年までに全国の各市町村において少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブを設立する」ことが示された。その結果，文部科学省の調査では創設済みクラブが2,664クラブ，創設準備クラブ数では450クラブ，合わせると3,114ものクラブが育成されている。また，全国の市町村数が1,750に対し，1,249の市町村において総合型地域スポーツクラブが育成されている。(平成22年7月1日現在，文部科学省調べ)

総合型地域スポーツクラブとは地域住民が主体的に運営し，総合型の意味するところにはクラブに以下のような特徴が盛り込まれている。

a)　他種目であること

b)　子どもから高齢者までの，多世代にわたる会員で構成されること

c)　地域のスポーツ施設を有効活用し，活動拠点を中心に地域住民とのコミュニケーションを図る場となる

d)　初心者からトップレベルの競技者まで，多様な技術レベルの会員が活動でき，またジュニア期からシニアまで一貫した方法で高度な指導が得られる

これまで多く見られた，少年野球団やサッカークラブのような「単一種目」「限定的な年齢層のクラブ」ではなく，複数の種目があり，幅広い年齢層の地域住民が「いつでも」「気軽に」参加できるクラブであることをスポーツ振興基本計画では定義している。

最近ではスポーツ基本法が制定（平成23年8月24日施行）され，「スポーツは世界

共通の文化である」という言葉から始まり，基本理念として8項目にわたって定められた。その項目の中においても,「スポーツを通して国民が生涯にわたりあらゆる機会と場所において，自主的・自律的にスポーツを行うことができる」という内容や,「地域においてスポーツを身近に親しむことができるようにし，スポーツを通して地域のすべての世代の人々の交流を促進し，交流の基盤を形成する」ともある。いまスポーツは人々が生きていく中で欠かすことのできない文化であり，スポーツが今後の日本社会の基盤を作っていくといっても過言ではないものとなっている。

そこで本研究では，埼玉県入間市をターゲットとし，著者が設立した（平成23年4月設立）T. A. P いるま総合型地域スポーツクラブ（以下 T. A. P いるま）のクラブ運営に関する今後の運営展望（定期及びイベント事業計画）を，入間市市民意識調査結果をもとに考察していきたい。

Ⅱ．T. A. P いるま総合型地域スポーツクラブ概要

（T. A. P とはトップ・アスリート・プロジェクトの略称である）

設　　立：平成23年4月
会 員 数：65名（小学生46名・中学生12名・大人7名）
対象地域：埼玉県入間市全域
活動内容：陸上競技・大人のランニング教室（定期事業）
　　レクリエーション・ウォーキング・ランニング（イベント事業）
活動曜日：月曜日・木曜日・土曜日
活動時間：月・木曜日16：50〜18：00（小学3年生まで）
　　月・木曜日16：50〜19：00（小学４年生以上）
　　土曜日8：30〜10：30（全員）
活動場所：入間市運動公園（月・木曜日）
　　駿河台大学及び彩の森入間公園（土曜日）

T. A. P いるま総合型地域スポーツクラブは2005年に陸上競技専門の単一クラブとしてスタートした。その後，総合型地域スポーツクラブ設立へ向け入間市教育委員会及び入間市体育協会，入間市陸上競技協会の協力のもと，2009年より設立準備委員会を設置し,2011年4月に総合型地域スポーツク

写真1　T. A. P いるまロゴマーク

ラブ設立へと至る。

Ⅲ．入間市スポーツ振興基本計画及び考察

入間市スポーツ振興基本計画は平成16年4月に制定され,平成24年度までの計画が立てられている。入間市を拠点とするクラブであることから，入間市スポーツ振興基本計画の項目（第1章ー第6章）の中から第2章である入間市スポーツ振興「基本理念」を参考に，今後のクラブ運営に反映させていかなければならないと考える。

1．基本理念

（1）健康スポーツは，市民の一人ひとりが，明るく豊かで健やかな日常生活を送るために，個人の趣味，趣向，年齢，体力や障害等に応じて，健康の維持や増進を図るためのスポーツである。また，生涯を通じて志向することを原点としている。

（2）地域スポーツは，各地域で生活している人たちが，その生活域の中で，スポーツに対する意識，好み，関心，経験，年齢，性，職業の特性，施設の諸条件等を踏まえて展開するスポーツである。多くの仲間と明るい雰囲気の中でスポーツを楽しみ,試合に勝つことよりも,やってよかったという思いを優先するスポーツ活動で,多くの人々との交わり，明るい人間関係を確立することがその基本である。

（3）専門スポーツは，高度な技術を習得することであり，ひとつの種目を極めるために全てを費やし，厳しいトレーニングで自分自身を鍛え，競争によってその優劣を決めるチャンピオン志向のスポーツである。このスポーツ活動は，私たちに勇気と明るい話題を提供し，子どもたちには大きな夢と希望を与え，スポーツに取り組む動機づけを与えてくれるなど重要な意味をもっている。

このように,みんなで楽しむスポーツと専門的で高度な競技スポーツがある中で,当市におけるスポーツ振興の基本は，トップアスリートの育成ではなく，「ENJOY SPORTS みんなで楽しむスポーツ」として，地域住民を対象としたスポーツ活動を確立することにある。

2. 基本理念からのクラブ運営に関する考察

T. A. P いるまの名称において“T. A. P”とは“トップ・アスリート・プロジェクト”であり，総合型地域スポーツクラブとしてクラブ運営を始める以前は，T. A. P TRACK CLUB という名称で陸上競技単一種目のクラブチームであった。このクラブから日本を代表する選手を輩出することがクラブの最終目標であり，小学生を対象に活動を始め，将来的には中学，高校，大学と一貫指導ができるクラブの活動を計画していた。現在においても総合型地域スポーツクラブへとクラブスタイルが変わったものの目指すべき方向性は変わっていない。しかし，入間市スポーツ振興基本計画における基本理念の最終的なまとめの部分において，トップアスリートの育成ではなく，”ENJOY SPORTS みんなで楽しむスポーツ”として，地域住民を対象としたスポーツ活動を確立すると書かれているが，クラブスタイルが変わったことによってトップアスリートの育成及びスポーツ活動・運動の普及，そしてスポーツ活動・運動の“場”を提供することのできるクラブへと成長することが可能となり，今後のクラブの課題となる。

地域住民に対する“場”の提供を考えると

(1) 参加者にとって魅力のあるプログラムづくり

(2) 施設面において，他のクラブチーム及びスポーツ少年団など競合するクラブとの兼ね合いがある中でも，優先的に利用できる環境づくり

T. A. P いるまにとって，“場”の提供（上記の2つの課題）をクリアしていくことが入間市振興基本計画からクラブ運営へ反映するべき事項であると考える。

Ⅳ. 入間市市民意識調査結果及び考察

入間市では3年に1度，市民を対象に意識調査を行っている。暮らしに関することや行政に対する考え方，地域活動など様々な項目において市内在住20歳以上を対象に無作為抽出法にて2000名ー3000名（年度によって変化あり）にアンケートを配布し調査を行っている。その中において，本研究に最も関係のある，「健康・スポーツ・芸術文化活動について」という項目に着目し，T. A. P いるまにおける今後の活動展望を模索していきたい。

これまで9回の市民意識調査が行われた（第10回は23年度）。第8回（平成17年）から「健康・スポーツ・芸術文化活動について」の項目が導入され，計2回の調査結果をもとに，T. A. P いるまにおける今後の定期事業計画及びイベント事業計画の活動展望を模索したいと考える。

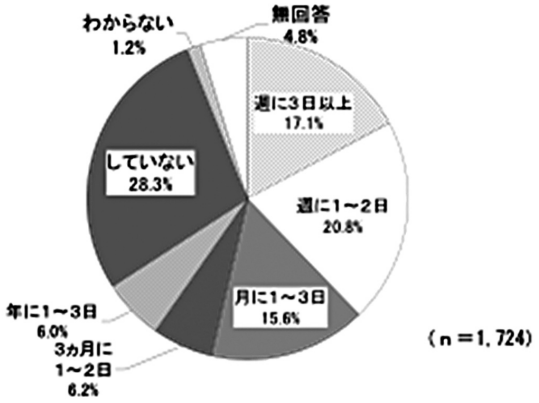
調査項目（健康・スポーツ・芸術文化活動について）の中で健康とスポーツに関する質問は5つあり，第8回（平成17年），第9回（平成20年）の結果をもとに考察していく。

1．1　運動・スポーツの頻度（全体結果）

「あなたは，この1年間で運動やスポーツをどの程度行いましたか。」

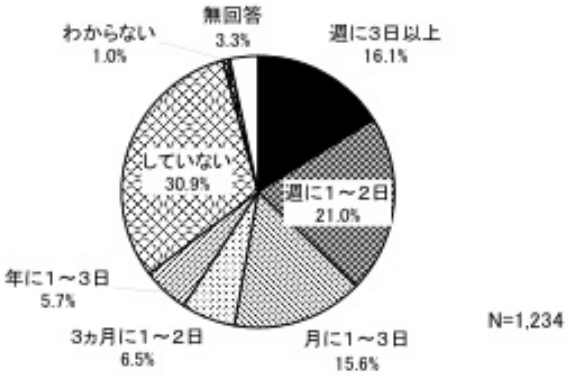
a）第8回（平成17年）

図1-1　運動・スポーツの頻度（第8回入間市市民意識調査）



b）第9回（平成20年）

図1-2　運動・スポーツの頻度（第9回入間市市民意識調査）

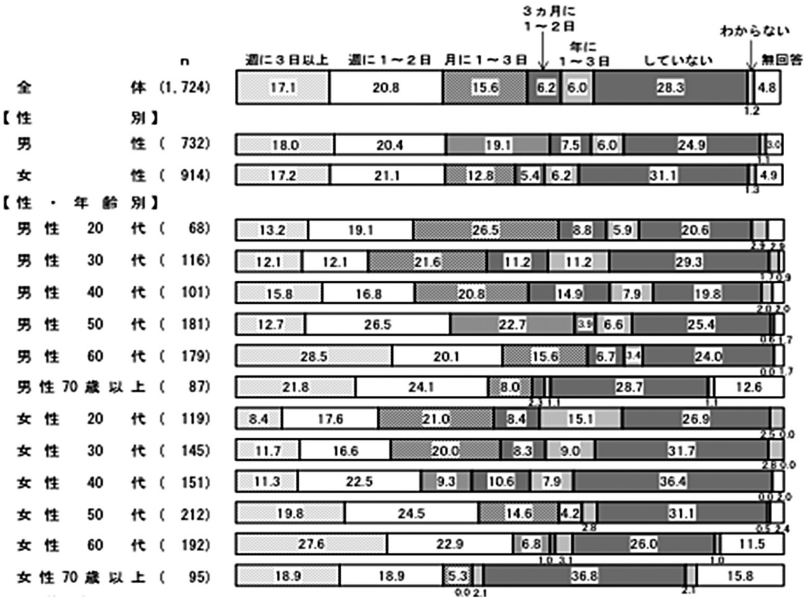


2回の調査結果を比較すると，運動・スポーツを行ったという結果を見るとあまり大差がないように感じるが，気になる点としては，“運動をしていない”人が第8回の調査より第9回の方が2.6%多くなっていることである。運動・スポーツ離れ，頻度の低下の傾向にあるようにも感じる。

1．2　運動・スポーツの頻度（属性別結果）

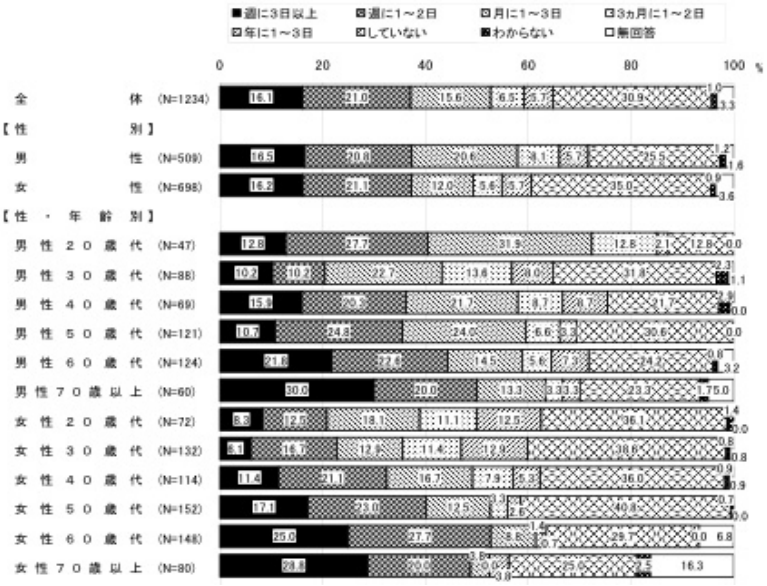
a）第8回（平成17年）

図1-3　運動・スポーツの頻度-属性別（第8回入間市市民意識調査）



b）第9回（平成20年）

図1-4　運動・スポーツの頻度-属性別（第9回入間市市民意識調査）



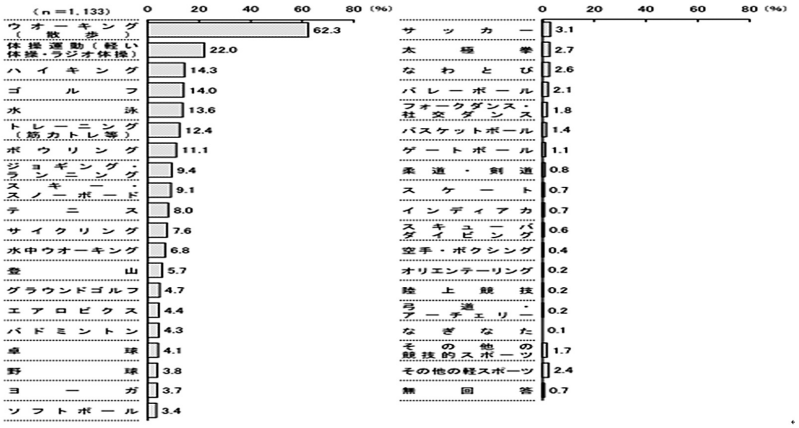
全体の結果として，第8回から第9回にかけて運動・スポーツを行った人数の低下が懸念された中で，属性別結果を見ると，女性の活動頻度の低下が運動・スポーツをしていないパーセンテージを高めているように感じる。

２．運動・スポーツの種目

「どのような種目を行いましたか(運動･スポーツを行った人のみ／何種目でも可)」

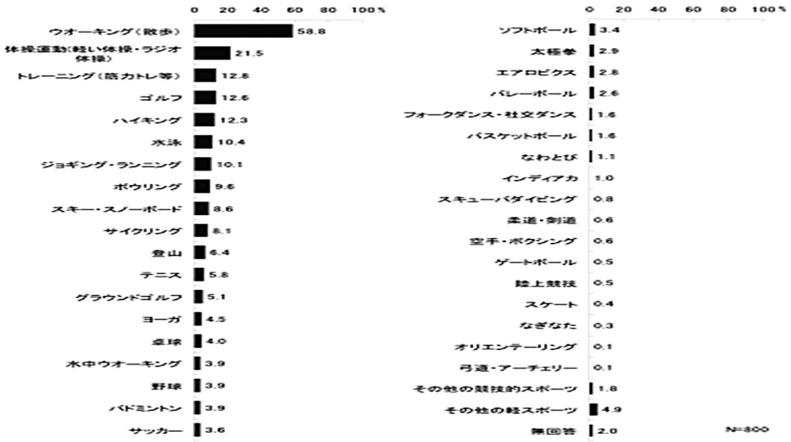
a）第8回（平成17年）

図2-1　運動・スポーツの種目（第8回入間市市民意識調査）



b）第9回（平成20年）

図2-2　運動・スポーツの種目（第9回入間市市民意識調査）



圧倒的にウォーキングの割合が高く，次に軽い運動（軽い体操・ラジオ体操）が

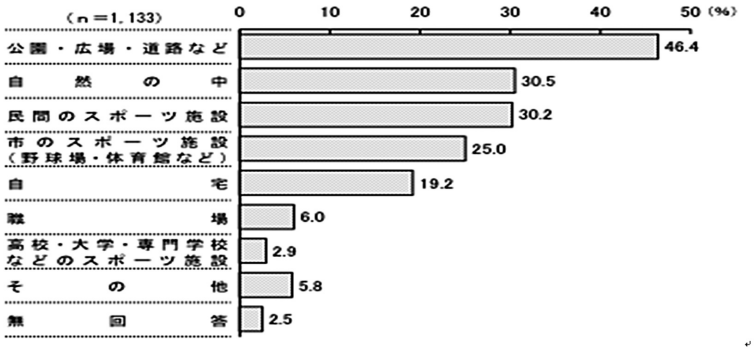
上位となっている。この結果からいつでもどこでも簡単に始められ，手軽なものが好まれる傾向にあるように感じるが，同じような種目でもあるジョギング・ランニングが他の種目より下位に位置づけされていることが気になる。“いつでもどこでも簡単に”という感覚だけが優先しているのではなく，体力的不安や怪我の心配等も加味されての結果と推測する。

3. 運動・スポーツを行った場所

「どんな場所で行いましたか。(運動・スポーツを行った人のみ／複数回答可)」

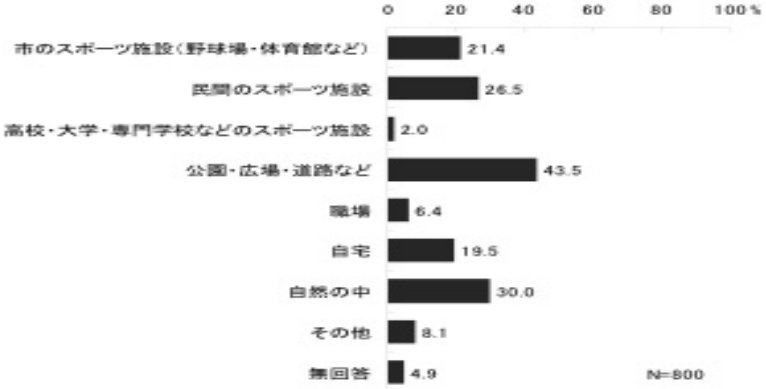
a）第8回（平成17年）

図3-1　運動・スポーツを行った場所（第8回入間市市民意識調査）



b）第9回（平成20年）

図3-2　運動・スポーツを行った場所（第9回入間市市民意識調査）



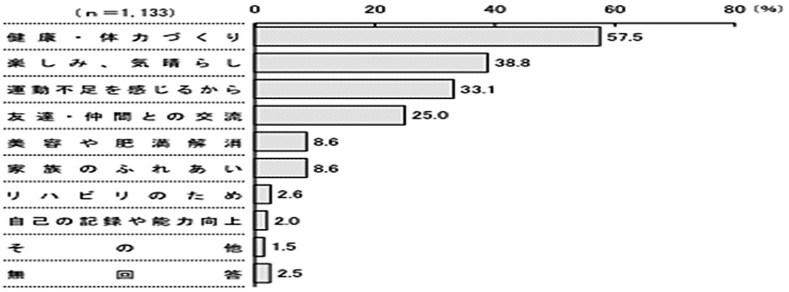
この質問に関しても，運動・スポーツ種目同様“いつでもどこでも簡単に”始められる公園・広場・自然の中などの場所が好まれる傾向にある。気になる点としてはやはり民間のスポーツ施設利用者が近年増加傾向にあることから，公共スポーツ施設の利用者が減少傾向にあるということである。この調査結果においては，第8回から第9回にかけて民間スポーツ施設，公共スポーツ施設ともに減少しているが，日本全体の運動・スポーツ活動者においては民間施設のほうが圧倒的に利用者が多く，好まれる傾向にある。公共スポーツ施設は，利用するのに予約が必要や狭い，設備が整っていない，汚いなどの声が多い。

4. 運動・スポーツを行った目的

「運動･スポーツを行った目的は何ですか。(運動･スポーツを行った人のみ／２つ)」

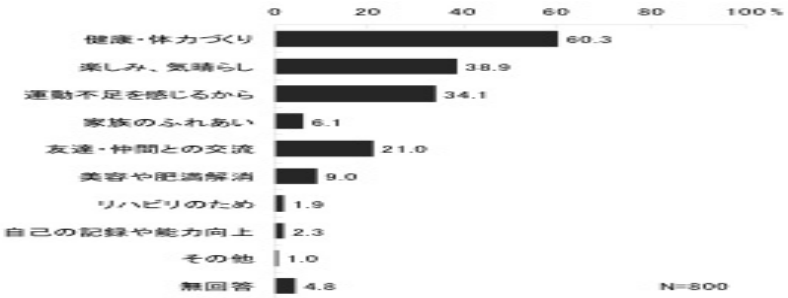
a）第8回（平成17年）

図4-1　運動・スポーツを行った目的（第8回入間市市民意識調査）



b）第9回（平成20年）

図4-2　運動・スポーツを行った目的（第9回入間市市民意識調査）



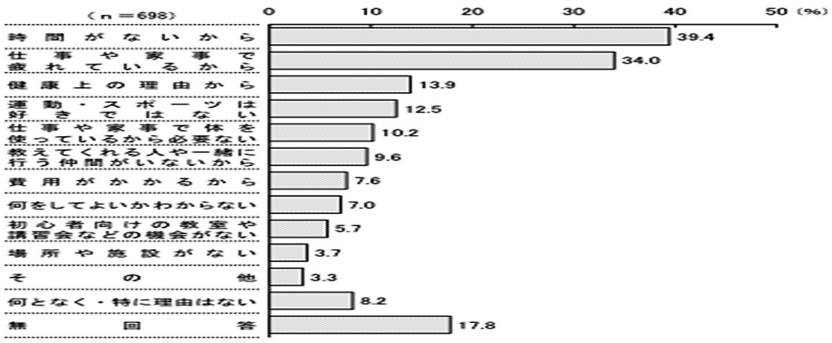
健康・体力づくりが高く，楽しみ・気晴らし，運動不足を感じるという結果は2回の調査結果において変化はない。共通して考えられることとして，体力づくりと運動不足は感覚が似ているようにも感じることから，運動・スポーツを行う多くの人々が健康を維持するためには運動・スポーツは必要な要素であると感じているのではないだろうか。また，友達・仲間との交流も上位に位置づけられていることからクラブ運営に大いに反映できる要素であるといえる。

5. 運動・スポーツを行わなかった理由

「運動・スポーツを行わなかった理由は何ですか。(運動・スポーツを行わなかった人のみ／３つ)

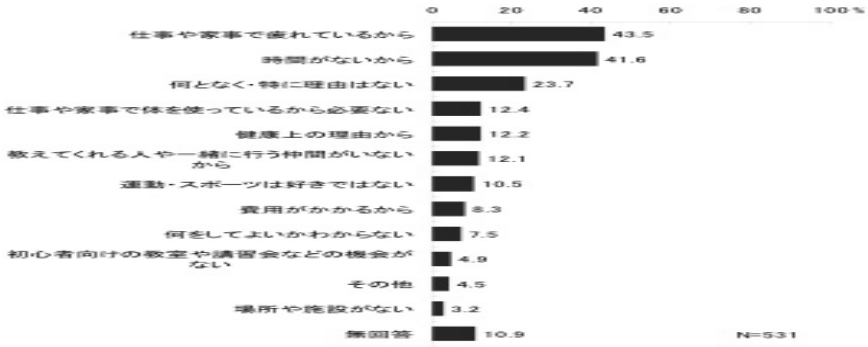
a）第8回（平成17年）

図5-1　運動・スポーツを行わなかった理由（第8回入間市市民意識調査）



b）第9回（平成20年）

図5-2　運動・スポーツを行わなかった理由（第9回入間市市民意識調査）



時間がないからや仕事や家事で疲れているの2つが圧倒的な理由である。近年の経済不況の影響も考えられるのか。ただ，何となく・特に理由がないといった人や，一緒に行う仲間がいないといった結果に関しては，うまくきっかけづくりが出来れば運動・スポーツを行う側に回るのではないかと考える。また，教室や講習会の機会がないといった声に関しても同様に考えてもよいのではないだろうか。

6. 入間市市民意識調査結果からの考察

第8回（平成17年），第9回（平成20年）の市民意識調査結果から，本研究に関する運動・スポーツについてのデータをもとに T. A. P いるまにおける今後のクラブ運営展望を模索する中で，アンケートに答えた市民の約7割が何らかのかたちで運動・スポーツを1年間の中で行っていることが判明した。しかし運動頻度としてはまだまだ少なく，今後の課題としては更に運動頻度を高めるべく，本クラブは活動していかなければならないと感じ，運動を行わない人の結果からも考えられるように，“きっかけ”“機会”が入間市内において少ないのではないかといえ，本クラブの今後のクラブ運営において，市民全体に対する運動・スポーツを行う“きっかけづくり”としてのイベント事業をまずは行うことが先決であると考える。イベントにおいて運動の楽しさを感じてもらい，共に身体を動かす仲間づくり，公共体育施設の利用に関する考え方の変化など，市民全体の意識改革が出来れば今後入間市において運動・スポーツを行う人口の増加を図ることが出来るのではないだろうか。それに伴い，クラブ会員の増加へと繋がれば，本クラブの今後の活動の幅も広がり，市民の皆様のコミュニケーションの場としての役割を果たすことも出来る。

イベント事業として，健康維持，健康促進，体力づくり，仲間づくりといったことを目的とし，市民の多くの人に好まれているウォーキングを中心に，いま国内において流行のジョギング・ランニング等の種目で開催出来れば，多くの参加者が見込めるのではないかと考える。問題としては1人でも出来る種目であることから，魅力ある内容の準備が必要であり，イベントとして“集まる”ことの意味を綿密に考えることが重要であるといえる。

定期事業としては，イベント事業において多くの参加者を募り，クラブへの活動へと移行していかなければならない。イベント事業におけるウォーキングやランニングといった種目を定期事業として活動していく中で，今後は目標や目的をはっきりとさせ会員の満足度（CS）を高める必要がある。

また，“場”の提供として考えると，入間市振興基本計画の中でもあったように，スポーツ選手・運動を行いたい人たちが活動できる“場”，多くの市民が参加出来る“場”，地域住民同士がコミュニケーションをとれる“場”としてクラブは存在していかなければならない。

Ⅴ．まとめ

今回，入間市市民意識調査結果を基に，T. A. P いるまの今後のクラブ運営に関する展望を模索，考察する中で，アンケートに答えた市民の約7割が何らかのかたちで運動していることが判明したことに驚いた。入間市には数多くのスポーツクラブ（クラブチーム・スポーツ少年団など）が存在するがその多くが子どもを対象としたクラブである。今回のアンケートに関しては20歳以上が対象となっており，その7割が運動を行っている状況で，アンケート対象者に対して受け入れが出来るクラブは数少ない。本クラブがその受け入れクラブとなり，本クラブ活動をきっかけに，入間市全体が運動とスポーツによって活気溢れる街へと変化出来れば，総合型地域スポーツクラブとしての役割を大いに果たすことが出来るのではないだろうか。本クラブのモットーとして，「スポーツで社会を変える！！」「スポーツで街を変える！！」である。このモットーの実現を夢に，今後も研究を続け，市民の皆様にとってなくてはならない存在へと成長したいと考える。

註

１）入間市市民意識調査結果，第8回（平成17年度），第9回（平成20年度）
　　対象者は市内在住20歳以上　無作為抽出法にてアンケート実施

引用参考文献

１）入間市スポーツ振興基本計画　2004年策定　2009年見直し改訂
２）第8回　入間市市民意識調査結果　2005年
３）第9回　入間市市民意識調査結果　2008年
４）文部科学省「総合型地域スポーツクラブ　育成マニュアル　クラブづくりの4つのドア」　2003
５）日本体育協会　「総合型クラブ創設ガイド」
６）広瀬一郎「スポーツマネジメント入門　24のキーワードで理解する」2005

7）山下秋二，原田宗彦，中西純司，松岡宏高，冨田幸博，金山千広「図解　スポーツマネジメント」2005